

神奈川県演劇連盟機関誌

ドラマ神奈川

第12号

1997年10月25日発行【神奈川県演劇連盟】

●横浜市中央区富富町西通り52 ☎045-261-4866

グラフィティ県連

ドラマ神奈川・テント劇場ラリー 閉幕しました

“交流”“創造”“発信”をテーマに約1ヶ月間にわたり展開されたアートライブ'97。県演連では昨年のプロデュース公演に続き今年は3劇団が各々の作品を持ち込む形で参加。猛暑と予想外の寒さという環境の中のテント公演に携わった人々と観客の声をほんの一部ですが拾ってみました。

劇★派

昨年に続いてのテント公演。特に今年は紫テントということで、一同張り切って表現致しました。何んの異和感もなく、伸びのびと演技出来て、私達にとっては良い経験でした。

アンケートより

- 上下と高さの違う舞台の使い方がとても効果的で螺旋の感じが出ていて良かったです。
- ものすごく深読みできるお話で最高によかったです。
- 内容が奇抜すぎてわからない。奇抜さは導入部で説明を入れた方がおもしろくなったと思う。



河童座

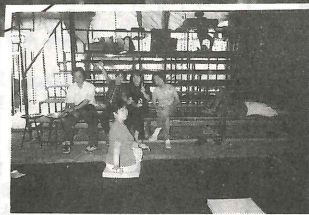
普段は絶対できないような演出などもあって、演じる側も観る側も楽しんでいる感じで、会場内の一体感のようなものがあつた。

アンケートより

- 子供ができれば連れていきたいので、ぜひ続けて下さい。
- テントならではの演出が大変よかった。河童座ならではのメルヘンチックな演出が光っていた。
- 最後風船が落ちてきて、後ろの景色が見えた時、とっても印象に残り、すてきでした。

葡萄座

テント劇場は初めてということもあつて経験としては面白かったが外光、騒音、強風など環境の不安定さに観る側も演じる側も集中力の維持が難しかったように思う。(20代・女)



アンケートより

- 生きること、死ぬことについて社会のあらゆる年代から見つめて人間の生涯を演じたことに感激した。
- テントのつらさを知った。テントは難しい。そこで頑張ったあなたたちはエライと思う。
- 不条理ものかと思っていたが最終的には一本につながっていたような気がする。

まとめ

同じ場所、2度目の参加ということではあっても動員数、観客の反応など通常の公演に比べまだまだ手ごたえがつかみにくいのが現状でしょうか。期間設定、公演形態、動員へのサポート、各劇団の負担など検討される点は残ると思われますがアートLIVEのもつ可能性や意義、そこで私たちが果す役割などを考えるとこの企画の一層の充実が望まれます。来年への一歩に向けて皆様のご意見を編集部には是非お聞かせ下さい。

2 横浜にゆうくりあ

「ナホトカ航路」

7 / 5 (土)・6 (日)
横浜相鉄本多劇場



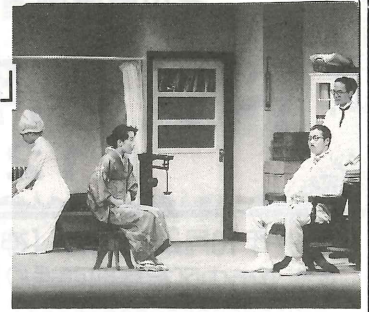
何もかもがあいまいで、何もかもがほどほど……というこの時代に「たった一本のバラを信じることのできる人生論」は成立するのか、というのが今回のテーマ。隣り合った見知らぬ人達と肩を組み声高らかにロシア民謡を歌う筈なのに誰も居ないうたごえ喫茶。来るのは場違いの女子高生や奇妙な画家等数人だけ。重油流出事故を起こしたロシアのタンカー『ナホトカ』そして、ボランティア活動をする3人の男女。福井県三国町と横浜のうたごえ喫茶をつなぐのが、一本のバラと懐かしいロシア民謡。若手新人をどしどし起用しそれぞれの感性を活かした演出は“にゆうくりあ”の特徴なのか。しかし、内容が複雑過多なうえに必要以上のキャラクターを持たせた事が混乱を招いたのでは……。登場人物に会話がなく客席に語りかけられる芝居は疲れるが、歌という武器が救ってくれた。どうせなら始めからつばやき喫茶にしてみました。奇抜な衣装、力み過ぎの演技を全て棄て自然体で演じたら、また違った展開が得られたのでは。

(担当 劇団かに座)

劇団蒼生樹

「法王庁の避妊法」

7 / 11 (金)12 (土)13 (日)
教育文化ホール



正直、三ヶ月も前に観た芝居ですので、細かい事は覚えておりません、悪しからず。

自転車キンクリートと云う劇団名はもちろん知ってはいたが、実際に観た事はなかった。だから法王庁がどんな作品なのか楽しみにしていた。成る程面白い。題材も良い。作者はジテキンの飯島早苗と鈴木裕美、女性だからこそ書けたのかも知れない。そう言えば私中学の頃、女性の身体にたいく興味があって、その手の本をいろいろ読んだり、成人映画「女体の神秘」なるものを観に行ったりした事を思い出しました。それはともかく、芝居の方ですが、面白い本を演出も役者も充分に生かし、楽しく観させてもらいました。荻野久作役の角田さんがとても好感が持てた事。助手役の平丸さんが妙にリアルで楽しかった事。久しぶりに観る鈴木弘明さんの健在ぶりが嬉しかった事。もちろん女優陣も達者で楽しませてもらいました。装置も相変わらず凝っていて感心した事、等。大雑把な感想しか書けません。スママセン。

(担当 演劇塾 小川雅功)

神奈川県演劇連盟 加盟劇団連絡ノート

京浜協同劇団

211・川崎市幸区古市場2-109
TEL 044-511-4951

川崎演劇塾

214・川崎市多摩区寺尾台2-8-12-504 小川方
TEL 044-951-9819

劇団葡萄座

220・横浜市西区宮ヶ谷2-2メゾン前橋302山本方
TEL 045-311-8208

劇団麦の会

220・横浜市西区伊勢町1-61 高津方
TEL 045-241-2828

劇団かに座

220・横浜市西区岡野町1-3-14 田辺方
TEL 045-311-5682

横浜小劇場

231・横浜市中区福富町西通り52
横浜演劇研究所内
TEL 045-261-4866

劇団蒼生樹

220・横浜市西区伊勢町3-133-824 濱田方
TEL 045-242-3584

劇団横浜にゆうくりあ

220・横浜市西区中央1-30-17 泉谷方
TEL 045-321-1920

劇団G/9 Project

235・横浜市南区南太田4-38-27
喜楽荘106 佐藤典久方
TEL 045-716-5297

劇団河童座

237・横須賀市田浦町4-32 横田方
TEL 0468-61-2666

劇団蒼い群

239・横須賀市グリーンハイツ5-2-107 村田方
TEL 0468-56-3157

プロジェクト夢樹

239・横須賀市大津町4-43 吉本方
TEL 0468-36-7494

劇★派

238・横須賀市上町2-1 ネバーランド内
TEL 0468-27-1631

湘南ミュージカル・シアター

253・茅ヶ崎市ひばりが丘1-10 前田方
TEL 0467-85-4313

劇団こゆるぎ座

250・小田原市本町2-2-20 梅月食堂内
TEL 0465-22-2988

公演スケジュール

劇団こゆるぎ座 11/1(土)18:00 2(日)13:00小田原市民会館
『小田原北條記ーとくひめ』後藤翔如/作
劇団横浜にゆうくりあ 11/2(日)18:30 3(月)14:30保土ヶ谷公会堂
『保土ヶ谷エクスプレス』泉谷渉/作
京浜協同劇団 11/7(金)18:30 8(土)14:00幸市民館
11/29(土)18:30 30(日)14:00宮前市民館 12/9(火)18:30県立青少年センター
『金魚修羅記』黒沢参吉/作
川崎演劇塾 11/14(金)19:00 15(土)14:00/19:00 16(日)14:00相鉄本多劇場
『アルジャーノンに花束を』ダニエル・キイス/作
プロジェクト夢樹 11/21(金)18:30 22(土)18:30 23(日)13:30横須賀青少年会館
『売春捜査官』つかこうへい/作
劇団葡萄座 11/22(土)14:00/18:30 23(日)14:00テアトルフォンテ
『正しい殺し方教えます』サットン、フィングルトン/作
劇団河童座 11/22(土)14:00/19:00 23(日)14:00相鉄本多劇場 12/6(土)18:30 7(日)13:30横須賀青少年会館
『Kという名の同居人』横田和弘/作
劇団かに座 11/28(金)19:00 29(土)14:00/19:00 30(日)14:00相鉄本多劇場
『さよならパーティ』木庭久美子/作
劇★派事務所 12/10(水)
12/10(水)19:00 横須賀青少年会館
『ページェント』祭山寸花/作・演出
劇団蒼生樹 12/12(金)19:00 13(土)14:00/18:00 14(日)14:00教育文化ホール
『はみだし忠臣蔵』中村俊夫/作
劇団麦の会 12/20(土)18:30岡野公園青少年の家
『日の出莊床下海流』佐久間崇/作 (部内発表)

劇★派

「生字引の孤独」

7 / 26(土)・27(日)
相鉄本多劇場



●介護者に守られてひっそりと暮す片足の動かない中年の女洋子、彼女は全共斗世代に属し、かつて斗争から脱落したことに罪の意識をいだいている。その女が自分の内的なイメージ、介護者の励まし、海外の斗争拠点での親友の死などを契機に現実に向って立上ろうとする…。そういう劇なのだが、見る方はコラージュとしてバラ撒かれている各シーンを自分で再構成しないと劇総体は把握されない。そこがこの劇の壁になっている。

●劇★派の芝居はしばしば“分らない”と評される。劇本来の役割りは“分らせる”ことでなく“感じさせる”ことの方にあるのだから、劇★派の方法が間違っているわけではない。

ところが今回の「生字引の孤独」では、この劇の根拠となる〈全共斗々争〉の高揚感のイメージの不足。コラージュされた多くのシーンの内〈赤いベンチに横たわる洋子の罪の意識のイメージ〉〈生命感を溢れさせる若い女の踊り〉を除いて凝縮度が弱い。それと海外拠点から脱落した元恋人と洋子とを何故対面させなかったのか…。それらを含めて、今度の芝居の意図は私の想いにまで届かなかった。(劇団麦の会・高津一郎)

劇団河童座

「ぞう列車がやってきた」

8 / 1(金)2(土)3(日)
相鉄本多劇場

8 / 9(土)10(日)
県立横須賀青少年会館



会場に着くと、劇団員の温かい笑顔に迎えられ、パンフレットをいただいた。芝居小屋に入れば、「ファミリーシアター」だけあって子供たちがたくさんいて、なんと、役者と子供たちで、影絵大会をやっていました。

もちろん、子供たちの笑顔は、100倍も輝いていました。

開演前に、子供と役者が舞台に立ち、楽しい雰囲気を作り出す演出は、芝居中も継続されていました。

戦争中の動物園の象と飼育係の心の通い会いを通して、いかに戦争が酷いものなのか、子供たちにも届いたのではないのでしょうか。

脚本・演出の横田和弘さんにお話を聞きましたところ、毎年夏に一度、ファミリーシアターと題して河童座公演を行っているそうです。

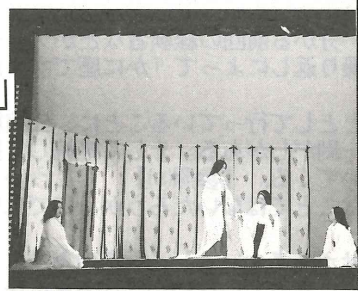
次回公演予定、11月の芝居では、どんな演出で観客を魅きこんでとても楽しみになりました。

(担当 劇団こゆるぎ座 金子麻美)

横浜小劇場

「しんしゃく源氏物語」

8 / 16(土)
教育文化ホール



創立45年記念公演「しんしゃく源氏物語」をみせて頂いた。おもしろい本だと思った。ずっと昔、「何だ、こりゃ」と屑屋に出してしまった作品を今あらためて舞台でみて、その新しさに驚ろかされた。高貴ではあるが後見を失って今は見る影もなく零落した醜女の姫一族の人間関係。落ちぶれの速度と深みによってむきだしになっていく人間の裸の姿。その凄じさ。その中で変わらないものは源氏を想う姫のぼんやりとした心情だけ。そこが夢を失った僕にとってはとてもおかしく、つらかった。原話は「未摘花」「蓬生」だそうだが、この間、約十年の月日が流れている筈。だが、そんなことは全く無視して、年令も着衣も住居の様も全く変えないところが僕にはよかった。話がおもしろく、余計なゴテゴテの説明はしない、それがよかった。欲を云えば、役者の生傷のようなものが薄く残念な気がした。

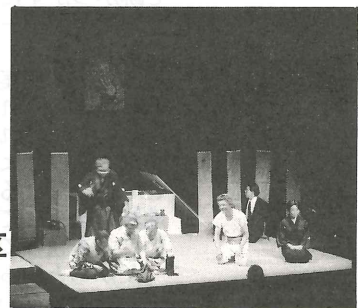
あと50年は集団の歴史をつみかさねて欲しい。「演劇の日常化」、すばらしい言葉です。

(担当 京浜協同劇団 中沢研郎)

劇団葡萄座

「生涯」

8 / 16(土)・17(日)
みなとみらい21地区
特設テント



テント公演ということで蒸し暑さを覚悟していたのですが、涼しい夏の日で、おまけに団扇まで配られ、快適に観ることができました。

物語は、人生のクライマックスであるお葬式、生き方、死に方までを演出し、ぼっくり死にたいと願っている老人とその家族が繰りひろげる、面白くちょっと皮肉なお話。

老婆3人はとてもいい味を出していて、老け役に思わず笑ってしまいました。舅は元気が良く、動きがシャープ(?)でした。脚本を知らない私はヨボヨボの爺さんを想像していたのでちょっと意外でした。

何かを伝えて欲しくてニュートラルな気持ちで観ていたのですが、役者の本に対する理解度の甘さか、私の理解度の無さか分かりませんが、十分伝わってこなかったのが残念でした。一方、老け役をこなしており、若手が多いと言われながらも、演目の幅がこれからぐーんと広がることでしょう。

(劇団 蒼生樹)

宣伝手法について

劇団かに座

田辺 晴通

編集委員から“製作”についての原稿提出依頼がなされたが、いわゆる製作についてはどこも似たり寄ったりだと思うので、かに座の宣伝のやり方などについて、かに座の主張なり方向なりに触れざるを得ないことを御容赦願って、その一部を紹介させていただく。

1. ちらし

かに座のちらしには演出を始めとしてスタッフ・キャスト名は一切掲載していない。これは、俺が、私が出演するから見に来てヨ、ではなく、個人の舞台を見に来て貰うのではなく、「かに座のドラマ」を観に来ていただく・いただきたい、という願い、主張が根底にあるからである。～出演者の写真入りなどは、本人としては気分も良くなり観客動員もやりやすいというメリットはあるだろうし、かに座内部としてもそう願っている者もいるかもしれないが、この姿勢は変わらない。～次に述べるポスター貼りについても同様である。

2. ポスター一頁貼り

ポスターを作成している劇団は、当然ながら一人でも多くの観客を増やしたい、身内演劇にならないようにと、ポスター貼りをしている筈だが、かに座の大きな特徴は、それを活動計画（稽古日程表）に組み込んであることだと思う。ポスター貼りは稽古より大事なんだと皮肉らしいことも言われはしたが、稽古を中止しての実施ではなく、稽古日程に「全員による一せいポスター貼りの日」を決め、この日は、各グループごとに定められた地区に向かって一せいに出かけるのである。

(1) 店内ポスター貼り

一せいポスター貼りは商店等の店内外貼りであり、この活動方法はもう30年以上も続いている。今までの掲示店一覧表を基に実施し、新規掲示店があればそれに追記していく。このとき持参するものは、ポスターは当然として①地区別掲示店一覧表、②ビラ下（招待状）、③紙・セロテープ、そして大事なものは特殊両面テープである。このテープは店の外壁用などのもので、糊が1ヵ月～1ヵ月半は乾かないので跡がつかず剥がすことができるのである。間違ってもセロテープ・布テープ・工作用両面テープなどは使ってはならない。

なおこれは、その地区の店の場所などが分かる前回の経験者などがグループリーダーとなって実施しているのだが、この繰り返しのよって「かに座です」だけで直ぐOKしてくれる店も多い。

そして、これもかに座として大切なこととして行っていることに、公演終了後、同グループによる御礼を兼ねてのポスター剥がしがあがる。そして継続して掲示をさせていただけるようカード式の礼状を置いてくる。【参照(a)】 ということは地域に根差してゆく市民演劇として大切なことではないだろうか、口ではいくら良いことを言っても行動が伴わねばと――

だからといって、現実には理屈つけてサボル者もいるし、意識の希薄な者もないわけではないし、合格点に達しているとは思っていないが、なお密度を上げるよう心掛けている。

なお、個人による店内貼りも重要な活動のひとつであることは当然であるが、1回限りで終わらないよう個人貼り一覧表を作成し次回公演の資料としていること、一せい店内貼りのとき漏れた店については、宣伝部が中心となってフォローすることになっていることを付記させていただく。

(2) 店外ポスター貼り

市の掲示板が中心であるが横浜市の場合、「まちの広告板」と「ふれあい伝言板」の2種類が設置されている（所管が異なる）。「まちの広告板」は旧の横浜市広報板でポスター用、約160ヵ所、「ふれあい伝言板」はA4版が基準のもので、300ヵ所位あるのではなかろうか、まちの広告板は古くから設置されているので、横浜の各劇団は大体把握していると思うが、ふれあいの方は比較的新しく、注意して歩くと思わぬところに設置されていることに気がつく筈である。

両掲示板とも掲示方法は同じで1枚10日間でその期間を表示することになっているが、期間表示のないものは論外として（初参加者は漏らすことがあるので要注意）、掲示期間10日～20日・10月25日～11月4日というようなのをよく見かける。一見10日間であるが11日間であるので、その日に20日又は4日があつた場合はほとんどん替えてしまおう、恥じることはない。

ポスターは紙どめであるが、かに座の場合は1枚に17個使用する。【参照(b)、1回に3,000個購入するが2回でなくなってしまう】これは経験的から風雨にさらされても剥がれないという個数である(掲示板が満杯であっても風雨の翌日に行くと剥がれてしまってスペースのある場合が多い)。そして上部でなく下部への掲示がルールとなっている(どうして下か考えてみて)。

また、掲示したからと言って安心はしてられない。上から貼ったり、替えてしまうルール破りがあるからである。時間をつくり2~3日後に確認したいところである。そのほか紙を抜く者(かに座専用の紙をつくれたらなぁと思っている)、位置を動かす者(少なくとも同じ仲間のポスターだけは動かさないようにしましょう)もいる。

掲示板関係は宣伝主任(かに座特有のスタッフ)が指示・調整の上、各劇団員が実施し、漏れ等がないよう記録していく。このポスターによってどれだけお客が来てくれているのか、アンケート等での反応は見えても正直なところまだよく分からない。しかし、見てくれないようで見てくれているのだと、新聞・情報誌などとの相乗効果もあると思うが、プレイガイドに追加券をもっていったこともあれば、今回の宣伝活動はウマクイッタと思った公演でも比較して残念な結果?もある。残念ながら現実には作品・作者の著名度などに左右されることは否定できないが、それだけにポスターは不可欠のものである。そして印刷した以上は残すことがあってはならないと、ちらしも残が生じれば例え100枚でもマンションなどに投げ込みをする。みんなの金でつくったんだもの、無駄にしてはならない《余談 保存資料まで投げ込んだ公演がある》。

3. 案内状

各団体とも案内状は発送しているが、かに座の場合はもうひとつ、はがきによる、それも劇団員のメッセージを記した割引案内状を発送している。主役になりそのとき例え100枚売ったとしても舞台に出ないときの客はぐーんと少なくなるし、やめてしまえば皆無に等しくなるのが現実だと思うが、これでは観客とともに共有する演劇の日常化にはほど遠いものになってしまうことから、知人・友人が舞台に出ていなくても「かに座のドラマには来ていただきたい」という思いを込めて発送しているものである。

本人はかに座をやめてしまってもその御両親は続けておいで下されたり、横浜市広報やばどなどの情報誌がキッカケで、それから毎回のように来て下さる方、また劇団員のメッセージからのお礼状や力づけのお手紙など数こそ少ないが大事にしている。昔「そんなはがき出して採算が合うのかい」とある劇団代表者から言われたこともあったが、採算ではなく価値感である、劇団内部の努力もかなり必要とするものではあるが――

4. 通信費

80切手で200枚、50切手1000枚が通常必要とする郵券だが、金券ショップで購入している。80切手で2円、50切手で1円、僅かな金額ではあるが、まとまるとバカにならない。利用している団体もあろうかと思うが、これは参考まで、なお10枚単位のバラ売りもあること。

【参照(a)】

御協力各位
劇団かに座 第74回公演
『予約席は異様につき』
ポスター掲示御協力ありがとうございました。

お蔭様で大盛況に、公演を終わらせて頂きました。御覧になられたお客様の評判も上々で、大きなミスも無く私達もホッとしている現在です。

次回公演(97年11月28日~30日相鉄本多劇場)
の前にもぜひ、御協力宜しくお願い致します。

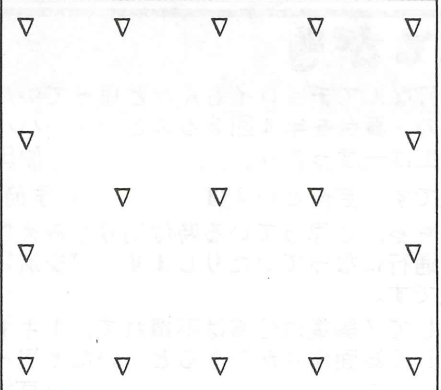
尚、公演活動についての御意見御感想等ございましたら、ぜひお寄せ頂きたく併せてお願い致します。

平成9年6月吉日

横浜市西区岡野1-3-14
劇団かに座
☎045(311)4616

以上、その時々によって思ったとおりにゆかないことも多いが、かに座の具体的宣伝活動の主なところを述べさせていただいた次第である。

【参照(b)】



9月18日県民センターで開催した理事会の概要を次のとおり報告する。

I 平成9年・演劇文化振興に関する要望書について 県予算一律7%削減という厳しい環境のなかではなおこの要望が認められるとは思わないが、我々の運動として毎年提出する必要があるこの主要項目は次のとおりである。(1)演劇関係者の意見を反映した演劇文化行政を〜県(川崎地区行政センター主導)・川崎市が推進協議会を発足させ予算化までして岡部耕大の「地域を創る川崎演劇座」を支援することについて疑問を呈した。岡部耕大としては鈴木忠志。つかこうへいと張り合うつもりかどうかは分からないが、神奈川県としては、これも問題なしとは思っていないがすでに「ASK」(分かるかな)が始動しているので、行政側の地域演劇に対する無知と著名人に弱い(盲信する)ところに起因があるのではないかと、なお当初川崎演劇「塾」だったが川崎地区の強行申し入れにより「座」と改称されたとのことであるが当然であろう。(2)横須賀青少年会館委譲問題について〜横須賀市への移譲はやむを得ないとしても演劇活動に支障が生じない配慮について (3)県演劇フェスティバル助成金の増額を〜現在120万(恥しい金額)を地域連携の強化と活性化のため500万の増額要望(神奈川芸術文化財団のオペラ予算の2%程度で済むのだが) (4)連盟40周年記念公演のための1200万助成金の予算化について、このほか、紅葉ヶ丘の再開発について・県脚本コンクール入選作上演の補助金・民間施設(当面相鉄本多劇場)への会場費補助について文書要望することとしたこと。(注)9月25日県文化室に赴き口頭要望とともに要望書を提出した。

II '98ドラマ神奈川フォーラムについて各団体各位については各理事から説明を受けていると思うし、内容については別に掲載される〈ちらしも作成〉筈なので割愛するとし、“全員参加のなかで成功させよう!!”と。

あしがき

- ◆年4回発行なんてチョロイもんだと思っていたけど、なんのなんの。舞台を年4回演るとの……ハハハ。流れていく人生は一度つきり。(原田 謹家)
- ◆芸術の秋です。芸術といえは(?)。いい季節です。(A)
- ◆やらなくちゃ、と思っている時は周りがみえず気がついたら一方通行になっていたりします。“交流”本当に難しい課題です。(葡・太)
- ◆はじめまして!編集の仕事は不慣れで、ドキドキものですが、楽しく紙面作りができるといいなと思ってます。よろしく。(京浜・清水)
- ◆各劇団のドラマ神奈川への期待が大きいことを知りました。できるだけ期待をうらぎらないようにしなくちゃ。(蒼い樹・平丸)

皆さんの劇団では、上演脚本をどうやって決めていますか?私の所属しているかに座は、

- ①数冊〜数十冊(?)読んだ中で「これは!」という作品を提出する。
- ②提出された脚本を全員で読み、脚本検討会を実施する。
- ③脚本検討会の内容を基に、運営部(主宰&数名のベテラン劇団員で構成)による会議で、かに座にふさわしく、上演可能な作品を選ぶ。という流れで決まります。(多分……?)

幸か不幸か劇団員が40名を越えるかに座では、全員が賛成する脚本を選ぶ事は不可能に近いので、最終決定を運営部に託すという方法は、決して間違っていないと思います。が、ここ数年の上演作品は、いずれも運営部から提出された脚本でした。

若手から提出した脚本をやりたいと思っている私から若手へ「運営部を納得させられるような脚本を提出できるように、もっと多くの脚本を読みましょう!」(私を含めて)



『98ドラマ神奈川フォーラム』を開催 参加者大募集中!

芝居作りに興味ある方、どなたでも参加できます。申し込みをお待ちしています。

日時: 1998年1月17日(土)〜18日(日)

場所: 観音崎青少年の村(第一会場)

横須賀市青少年館(第二会場)

内容:

[1日目](第一会場)

第1部 トーク・トーク(講演)

第2部 分科会(芝居作り基礎講座など)

第3部 交流会

[2日目](第二会場)

第4部 シアター(連盟加盟劇団公演)

参加費: 3,000円(全日券)

2,000円(1日券)

1,000円(シアター券)

締切り: 12月10日

申し込み・お問合わせ

神奈川県演劇連盟まで

TEL/FAX 045-261-4866(中区福富西通り52)